

京林大だより

No.42



絵：卒業生 熊走君

卒業研究発表会を開催しました

平成31年2月19日、わち林業センターにおいて卒業研究発表会を開催し、2年生16名が13課題について発表しました。

2年生達は緊張した面持ちで発表に望み、会場からは多くの質問が出て活発にやりとりがされました。

この卒業研究は、森林・林業ひいては社会に役立てることを目的に、林大生がインターンシップ研修や実習などで気になったことや疑問に思ったことについて調査・研究を行い、改善策や解決策を論文としてまとめたものです。

発表内容は、林業機械、安全作業、台風被害に関することから、日本とドイツのアンケート調査による森林・林業についての意識調査、京丹波町の森林の利活用についてなど幅広い分野に渡りました。

学生自身が自分で調べたことを論文にまとめ上げるのですが、担当教員とのやりとりを通じて文章力やプレゼンテーション能力の向上につながったことがよくわかります。

林大では開校当初から積み上げた研究論文が108課題になりました。これからもますます良い卒業研究ができるようにしていきたいと思えます。



森林公共政策専攻は4人で1テーマ



大画面で分かり易く説明



活発なやりとりで充実した発表会に



卒業研究発表会



校長先生からも質問が



無事終了し記念撮影

卒業式について

2年間お世話になった第6期生16名が、3月18日月曜日に卒業式を迎えます。

今年度の卒業生は、林業・木材関係には12名が、また林野庁や森林整備センターなどにも4名が就職します。

府内にも半分の8名が就職しますので、皆様にお世話になることもあるかと思えます。

今年度の卒業生を加えると、開校以来和知から巣立つ者が108名になり、いろいろな場で、活躍してくれている話を聞くと本当にうれしくなります。

皆様に暖かく見守っていただいたからこそ、林大で成長できたのだと思いますのでこれからも、どうぞよろしくお願ひいたします。

なお、新入生の入学式は4月8日です。

16人が去った後、また新しい若者がやってきますので、楽しみにしたいと思います。



今月の授業参観

『木材加工1』

構造用集成材の国内生産シェアトップの銘建工業(株)(本社：岡山県真庭市)の工場を、1年生12名が見学しました。

住宅の柱や梁、公共建築物の大断面・長尺材など、品質と強度が安定し、利用が拡大している集成材について学びました。

中島社長(本校特別教授)からは、「21世紀は木材の時代。時代の本流の仕事をする気概で頑張ってください」と、学生にエールを贈っていただきました。



銘建工業(株)集成材工場を見学



校長室より

長野県ふるさと森林づくり大賞

校長 只木良也

1月16日、長野県「ふるさと森林づくり賞」表彰式。その受賞十数名のトップ、「大賞」を私が戴きました。こんな立派な賞を長野県外者の私に...。大いに感激。

昭和53年春、信州大学理学部の教授を拝命した私は長野県へ。この時、大学の先輩の長野県庁市川課長に挨拶に参りましたところ、市川さんはこういいました。「丁度いいところへ。新設の林大を手伝ってくれないか」。当時、市川さんは、その翌年開校予定の長野県林業大学校の設立準備担当でした。その場で口頭ながら、林大講師の約束。

翌昭和54年、林大開校。そして市川さんはその校長の席にありました。日本には、西欧的近代科学では律しきれない独自の山の哲学あり、といった信念と理論を盛り込んだ実践教育、また人間性

の調和的発達を目指した「全人教育」が開始されました。

開校後、順調に進み始めた林大でしたが、第一期生の卒業まであと半年残して、市川校長突然のご他界。その訃報を聞いた教室で、学生たちは涙を流したといえます。20歳前後の若者達がですよ。その第一期生の中から、一昨年、県林務部長が誕生(→京林大だより31号)。

市川校長が敷いた路線を長野林大は走り続け、その中で、開校以来連続の講師は、私一人に。

昨年6月の40周年記念式で、それに伴う「感謝状」を、私は長野県知事から頂戴しました(→京林大だより38号)。

京都林大。その設立準備期に、長野林大でのノウ・ハウを私なりに助言しましたので、京都林大には長野林大から「盗んだ」知恵がかなりあります。

長野林大には、「商売敵に一寸出稼ぎに」と挨拶して京都林大校長の椅子についたのですが。

昨年夏の「県知事感謝状」に重ねて、この度の「ふるさと森林づくり大賞」。何か「盗っ人に追い銭」の感ありませんか。追い銭もらった盗っ人は勿論大喜びですが。